

広報 たかもり

発行 阿蘇郡高森町役場 TEL (高森局09676) ②0611 [代表]

人 口

— 1月31日現在 —

人 口 10,046人 男…4,858人
女…5,188人

世帯数…………… 2,634

転入 87 出生 16

転出 58 死亡 10



第187号

昭和50年

3月1日

とじておくと役立ちます

おもな内容

- 不意打ち 1,083戸が断水 …………… (2)
- 町の給水に馬原さんが応援 …………… (3)
- 地震に万全の備えを …………… (4)
- 高森小・草南小の創立100周年記念式典 …… (5)
- 3月20日から春の防犯運動 …………… (6)
- 第6回日本ジャンボリーに参加して …………… (7)
- 高森その歴史・お知らせ …………… (8)
- みんながつくる町民のひろば …………… (9)

春の野だて

早春のあたたかい日射しに水もぬるみ、厳しかった冬の南郷谷にようやく本格的な春が訪れようとしています。山のふもとには、まだ残雪の残る場所もありますが、若草が萌え、野鳥のさえずる田園は、これから斬新な春の輝きをますすばかりです。

梅の花もやがて満開。上在・含蔵寺の境内では、今月中旬恒例の春の野だてが行われます。ピンク色の小さな花が芽ぶいた枝越しに、陽気な笑い声が聞こえるようです。

日曜
在宅医

- ▷ 3月2日 本田医院 上町 ②0016
- ▷ 3月9日 藤本医院 中松 ⑦0020
- ▷ 3月16日 後藤医院 下田 ⑦0019
- ▷ 3月23日 平田医院 旭通 ②0216
- ▷ 3月30日 馬原医院 上町 ②0646

自分の車 駆使して 町の給水に「応援」 馬原益夫さんが大活躍



「しばらくこの水で辛抱を」
—さきの国鉄高森トンネル工事に
よる断水騒ぎの中で、高森町の
馬原益夫さん(三〇)「農業」は、
自家用車で飲料水を配って回り、

町内の人たちから感謝されていま
す。
本町の中心地は、国鉄高森トン
ネルの掘削工事で簡易水道の水脈
が切断され、二月十四日未明から
十五日夕刻まで
完全断水となり
ました。このた
め、町は自衛隊
の給水支援を受
けましたが、こ
の困惑な実態を
知った馬原さん
は、さっそく自
給水奉仕をする
馬原さん

家用のジープに五百ポンドのポリタン
クを乗せ、給水作業に参加しまし
た。
取水は、村山、色見の簡易水道
から。両水道の水が万一不足した
場合を考えて、白水村の知人から
も湧(ゆう)水をもらうようにし
ました。
町内各区とも町の広報車で、こ
の水不足を知らされてはいたもの
の、どの家庭も冬場の断水に大あ
わて。馬原さんのわか作りの給
水車には、バケツやオケをかかえ
た主婦たちが押し寄せました。
個人給水を終わったあと、馬原さ
んは町が各要所に備えつけたポリ
容器にも水を満して回りました。

水不足のため高森地区の皆様
にたいへん迷惑をおかけしていま
す。町では、一刻も早く平常給水
ができるよう鉄建公団と努力して
いますので、いましばらく辛抱
ください。空気が乾燥しています
ので火の取扱いは十分ご注意ください。

(水不足でお願い)

トンネルから水源地へ送水する工事が突貫作業で行わ
れました。



写真中は味岡第8師団長(中央)に断水の状況を説明する岩下高森町長。写真下はトンネル工事現場から排水される地下水

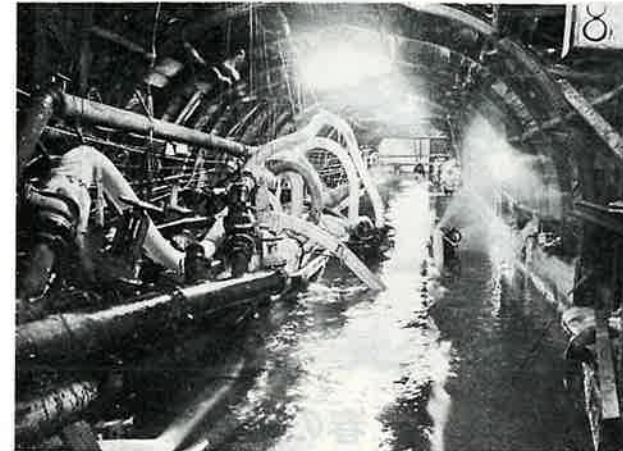
不意打ち 1083戸が断水

町簡易水道

水脈切れ、水源地渇く

国鉄トンネル工事で 自衛隊に支援要請

国鉄高森・高千穂線の高森トンネル掘削現場で、二月十三日、
大量の地下水がわき出したため、本町の水源地が枯渇。町中心部
の天神、上町、旭通り、横町など千八百三十三戸(約三千四百人)が
同日から三日間にわたって、完全に断水状態となりました。



写真上は早朝、自衛隊の給水車から水をもろう主婦たち
写真下は大量の地下水で水びたしになった高森トンネル
坑内

本坑に入り立野側
三百五十坪、高千
穂側七百坪の地点
まで掘り進んでい
ます。
工事現場のよう
水は、昨年六月ご
ろから見られ、水
源地への影響が
心配されました
が、二月十一日午
後になって高千穂
側で大きな水脈
の断層に突き当た
り、地下水のゆ
う水量は一挙に五
倍近く(推定毎分
二十ト)に達しま
した。
別所の堤もこの影
響で満水となり、
一時は堤防の土手
が決壊する心配
さえ出たため、近
くの消防団が

警戒に当たる騒ぎ
となりました。
これは裏腹に、簡
易水道の各水源地
は、この工事によ
って水脈を奪われ
たため枯渇し、各
家庭への給水がス
トップ。
このため、本町
では県阿蘇事務
所を通じて陸上自
衛隊に給水支援を
要請。二月十四日
午前四時半、熊本
の第八師団四十二
普通科連隊の安藤
義信三佐以下隊員
五十人が一ト給水
トレーラー十台、四
ト給水車一台をも
ってかけつけまし
た。
これと同時に、本
町ではさっそうと
五百坪入りのポリ
タンク五十個を町
内各所に用意して
村山、色見両地区
から飲料水を運ぶ
作業を続けました。
一方、トンネル工
事現場からの排水
を水源地に還元す
る応急工事は、鉄
道建設公団側の突
貫作業により完成
、ようやく各家
庭への給水が行わ
れるようになりました。
さらに同公団では
、この応急工事に
加え給水能力を高
めるため、ほかの
貯水池にもトンネ
ル坑内から送水で
きる工事を急いで
います。
ところで、飲料水
の確保はどうやら
できたものの、取
水量が少なく、ふ
え続ける需要をま
かたうにも限度が
あります。貴重な
資源である水を大
切に使っていただく
ために、ご家庭や
職場ではどうか節
水にご協力ください。

地震でできた一の宮町の県道



連絡先は決めておく

の余裕があるでしょう。ある心理学者は「もう関東大震災を経験した人が少ないので、もし大きな地震がきたら、東京のような大都市はパニック（恐慌）になるだろう」と予測しています。驚く、恐怖の状態に追い込まれると、腰を抜かす人がいるし、ただ右往左往する人もいます。そんなときに、いろんな情報が乱れ飛べば、それこそ混乱は極点に達します。

族ぐるみの地震対策です。地震になつてから食糧は、懐中電燈は、ラジオは、では遅く、やはり各家庭で非常用リュックに詰めて、家族のだれでもわかる場所に置いておくことです。それから、勤め先や学校と家族が離散しているときに、地震がきたりすると、連絡や消息もつかみにくくなります。だから日ごろから家族で話し合っておくことも大

切です。また、住んでいる近くの安全な避難場所や逃げ道を検討しておき、さらに、最後の落ち着く場所を決めておくのも一つの方法です。そのほか、火を出さないために石油ストーブとか、電気器具などは、地震がきたら自動的に消える装置のついたものに切り替えるのも一つの対策といえるでしょう。

地震に万全の備えを

避難前に火を消す

急な飛び出しも危険

このところ阿蘇を中心に九州全域で地震が続いています。昔から「地震、カミナリ、火事、おやじ」といわれています。中でも地震が一番こわいようです。当地方をおびやかした群発性地震は、一応鎮まる兆しを見せてはいるものの、いつ再発するかわかりません。そこで、今回は大地震に対する心の備えを考え直してみよう。

大地震につきものは火災です。大正十二年の関東大震災が多くの死者を出したのも、火の不始末による飛び出しが大きな原因といわれています。

す。ましてや、あつちで火が出たこっちは燃えているといった状態になると、群衆心理によるパニックが起きるのは確実です。大地震で生き残れるのは、どうしても冷静になること以外にないようです。ところで大地震というのは最初のぐらつとする激震が問題で、一分過ぎたら、まず安心といわれます。だから大きくぐらつときたらまず火を消し、あわてて外へ飛び出さないことが賢明です。そして火が出たら全力を挙げて消火に努めることです。それともう一つ大切なのは、家

春は空気が乾燥し火災がおこりやすくなります。ことしも二月二十八日から三月十三日まで、「生活の一部にしよう火の点検」をテーマに、春の火災予防運動が行われています。最近では生活様式が急激に変化し、各家庭でもガス・灯油を大量に消費し、火災発生危険が大きくなっています。さらに有毒ガスを発生する新建材も大量に使用され、火災がこれば焼死する可能性が非常に大きくなっています。最近の火災による死者の過半数は、ガス中毒、窒息死がほとんど。このため、県防災消防課や町消防係では、日常の防火点検として次のような心構えが大切だ

春の火災にご用心

- と強調しています。
 - ①外出する前や寝る前には、ガスの元栓や電気のさし込みは、コンセントから抜いておく
 - ②タバコは投げ捨て、置き忘れないようにし、寝タバコは絶対にしない
 - ③消火器を備えるときは、必ず国家検定に合格した消火器にする
 - ④LPガスのボンベは屋外の直射日光の当たらないところに置く
 - ⑤石油ストーブはカーテンのそばや室内の干し物の下などで絶対に使わない
 - ⑥用事や観光のため旅館、ホテルにとまるときは、自分の部屋から一番近い非常口を二つ以上調べておく。
- ☆☆☆☆

非常時の通信に威力

県庁と即時通話も

「防災行政無線」が開局

県と県下全市町村が一体となって開局をめざしていた防災行政無線（特殊無線）局は、本町役場でも送受信機などの取り付けを終わり、このほど試験通話が始められ



ました。阿蘇、天草、球磨地方の災害による苦い経験を生かし、非常時の通信確保を図ろうと、国が示した防災行政無線設置五ヶ年整備計画の第一年度事業として行ったもので、全体計画の事業費は六億一千四百五十七万円、うち本町負担金は八十万七千円。本町に設置された無線機の出力は二十三ワット、周波数は五四・

八六メガヘルツ。アンテナは指向性のある八木式で、停電に備えて自家用発電機一台も付設されました。通信の方法は、普通の電話と全く同じダイヤル同時通話方式。非常災害時の各種情報を県下一斉、または個別に伝達できる仕組みになっており、日常の行政事務にも利用できます。現在は仮免許のため、本格的な運用はやっていませんが、九州電波監理局から正式の免許がおりれば、電話代の節減にも役立つため近く庁舎ごとに送受信機を設けることにしています。写真には役場に備え付けられた無線機

草部南部小

（古庄光男 校長、百五十四人）

実行委員会が贈ったミカゲ石の「百周年記念碑」の除幕は、二月十一日午前十時から同校岩石園前に全校児童、父兄約二百人が出席し、六年生の本田孝喜君と一年生の金岡和代ちゃんの二人が行ないました。このあと、集会所に児童父兄、来賓ら二百五十人が出席して記念式典に移り、堤実行委員長古庄校長の式辞、岩下町長、甲斐町議会副議長らの祝辞があり、在校生を代表して六年の二子石ゆかりちゃんが「先輩たちが築き上げてこられた校風を立派に受け継いでいます」と喜びの言葉を述べました。

高森小・草部小 創立百周年おめでとう

盛大に記念式典

高森町立高森小と草部南部小の創立百周年記念式典は、このほど行われ、児童はじめ父兄など地元民多数が出席、記念講演や記念碑の除幕など数々の行事で「百歳の誕生」を祝いました。

高森小

（上妻可成校長、四百七十九人）

同小は高屋敷、古沢玄倫宅で授業したのが始まり。同十三年、町内に三校が創立されましたが、の



高森小の記念式典



草部小の記念碑除幕式

ちに合併して高森尋常小学校と改称。昭和六年に現在の校舎が落成して現在に至っています。記念式典は二月十五日午後一時から同校講堂に児童、教職員、育友会、校区民など約七百人が出席して開かれまし

山村育友会長、上妻校長が式辞を述べたあと、岩下町長、松田町議会議員、本町教育長らがそれぞれお祝いの言葉を述べました。続いて同校児童の作文朗読、器楽演奏があり、今村俊男町教育委員長の「高森小学校の歴史」と題す

校内には明治時代の卒業証書などの展示コーナーも設けられ、同窓生がなつかしそに参観する姿が見られました。実行委員では、これを記念して大型テント六張り

を学校に贈りました。

なお、同校は明治七年公立杜倉小学校として創立、大正十年旧草部村立草部南部尋常高等小学校となり、昭和三十年町村合併で高森町立草部南部小学校に改称、これまで約四千人の同窓生が巣立っています。

悪質化する少年非行

3月20日から春の防犯運動

悪の芽、早く摘み取ろう

春の行楽、入学シーズンを迎える県警は、三月二十日から四月二十日まで春の防犯運動を展開します。運動の重点としては、年々悪質化する少年非行の防止をモットーに①家出少年による

非行防止②かっぱらい、万引の防止③シンナー、ボンド乱用の防止④暴力と性犯罪の防止⑤に取り組むことにしています。昨年の同運動期間中だけでも高森署管内で補導した少年は、

刑法犯少年三十五人、特別法犯少年七人、ぐ犯不良行為少年百八人の計百五十八人。これを前年に比べますと、刑法犯で十三人、特別法犯で七人がそれぞれ増加しています。特徴として刑法犯少年では小、中学生の窃盗が急増し、三十五人中二十六人と全体の七四割を占めています。また、特別法犯は、前年全くなかったものが、七人（高校生）のボンド乱用六人、有職少年の

覚せい剤使用一人）となっています。ぐ犯不良行為少年は前年に比べて五人減少していますが、内容では非行の始まりといわれる喫煙、夜遊びがその大半を占めています。期間中は高森署が各地区内のパトロールを強化するほか、五十五か所の防犯連絡所、十六人の少年補導員とも連絡を密にし犯罪の一手につとめます。春の防犯運動推進にあたり、少年の悪の芽は、小さいうちに摘み取りましょう。



完成間近になった警察通りの歩道

町内きつての交通量 「通学」これでひと安心 警察通りに歩道新設

本町中心部の町道「警察通り」で、歩道の新設工事が始まりました。これまで町道には全く歩道がなく、登下校の子供たちが不便をかかっていたが、これで「安全登校」もOK。歩道ができているのは駅通り（草村旅館前）から国道三二五号線に至る延長二百八十七メートル。町内ではもっとも交通が激しく、鉄道や国道の建設工事以来、通勤、通学時は人と車でごった返します。これまで車道の片隅を通学路として利用している子供たちからも「片側だけでも歩道があれば便利だし、安全なのに」という声が出ていました。

新設される歩道は幅員一・五メートルより十二センチ程度かさ上げ、三月いっぱいには完成の予定です。総工費百九十八万円。なお、五十年年度は町道「色見環状線」の駅前幼稚園間にも歩道をつくる計画です。

PTAが庭づくり奉仕

高森中学校

「子供たちにミドリをプレゼントしよう」と高森中学校のPTA（田代新祐会長）は、同校中庭に池をとり入れたみごとな庭園をつくりました。中庭には木が少なく、殺風景なため、PTAの緑化委員たちが年度当初に造園事業を計画、十万円



庭づくりの奉仕をする高森中のPTAたち

の基金をもとに、一月八日から苦心の作業を続けていました。設計は努力奉仕を買ってでた色見の岩下徳雄さん（造園業）。基金を最大限に生かすため、庭石は校舎裏の谷から運搬、大半は樹木の買入れに当てられました。このほど、盛り土の部分にもマツやウメなど十数種の樹木が植え込まれ、池も最後のセメント仕上げが終わりました。暖かくなれば庭園の周りにも芝を張り、池にコイを放す予定です。

「第六回日本ジャンボリー」に参加して

ボーイスカウトの祭典「第六回日本ジャンボリー」が、昨年八月一日から六日まで北海道の千歳原で開催されたが、この大会に県代表として参加した本町の工藤安祐君（ボーイスカウト阿蘇第四団、高森中三年）から次のようなレポートをいただきました。

工藤安祐君（高森中）のレポート



大会には全国からの代表スカウト二万七千人のほかアメリカ、オーストラリア、マレーシアなどの外国スカウトも参加して盛大なものとなった。大会テーマ「大自然」はまさしく北海道にぴったりである。

僕たち県代表は大会前夜遅くこの地に到着した。雨の降っている暗闇の草原を懐中電燈だけでテントを張り、寝る用意はできたものの北海道にきた喜びで、なかなか眠ることができなかった。

翌朝、僕はテントから出て驚いた。なんと広いところだろう。見渡す限りの大平原。その中のごろごころに白樺林があり、あたりは各地から来たスカウトのりっぱなサイトがある。夕方までキャンプの準備で汗を流し、それから開

雄大な北海道に感歎

会式場に向った。入場パレードがあつて、序奏、点火、国旗掲揚と続き、力強いスカウト宣言があつた。そして、総長、知事、総理大臣のあいさつや祝辞があつた。その後隊旗入場があつたが、そのさまは壮観だった。大会翌日、僕たちはサブキャンプブレイルに参加して、外国や他県のサイトを回って、技術面の勉強をした。またキャンプ中は中央広場でパレードの親善試合や大営火に参加した。各国や各地方代表の郷土芸能は、規模も大きく実にすばらしかった。私たちも「九州男児」を披露して友好をあたためた。五日は、皇太子殿下ご臨席のもの



日本ジャンボリーの開会式

各ブロックの演技に移り、最後の四国ブロックの「阿波踊り」では全スカウトの踊りでうずまった。曲目がジャンボリー讃歌に変わると、一人一人のローソクに一斉に点火され、「別れの営火」を合唱しながら皇太子をお見送りした。

身障者、戦傷病者に不在者投票制度

法改正
公選改

昨年六月公職選挙法の改正があり、これに伴って、このたび公職選挙法施行令が改正され、従来からの不在者投票制度のほかに、新しく身体障害者、戦傷病者の方々の不在者投票制度が創設されました。この制度は、身体に重度の障害がある選挙人の投票に便宜を与えるものであり、わざわざ投票所に行かなくとも、現在いる場所（たとえば自宅や病院など）で投票して選挙管理委員会に郵送する方法です。

この方法で投票できる選挙人は次の条件を満たしている人に限られます。

○身体障害者手帳を持っている方でマ両下肢、体幹の障害が一級もしくは二級の該当者マ心臓、じん臓、呼吸器の障害が一級もしくは三級の該当者

○戦傷病者手帳を持っている方で

僕にとって、このように大規模なジャンボリーに参加できたことは大きな喜びである。今回のテーマ「大自然」はまさしく北海道の別名に等しい。クラークが「少年よ大志を抱け」と言ったが、僕もこの地で、たいへん貴重なものを得ることができた。

マ両下肢、体幹の障害が特別項症から第二項症までの該当者マ心臓、じん臓、呼吸器の障害が特別項症から第三項症までの該当者。このいづれかに該当する方は、投票用紙などの請求をするとき「郵便投票証明書」が必要になりますので、今すぐ選挙人名簿に登録されている市町村選挙管理委員会の委員長あてに身体障害者手帳、または戦傷病者手帳を添えて申請手続きをしてください。（この「郵便投票証明書」の交付申請書の用紙は、市町村選挙管理委員会に備えてあります。）この郵便による不在者投票制度は、三月一日以後に公示、または告示される選挙から適用されることとなりますので、詳しいことは市町村選挙管理委員会におたずねください。

高森の歴史

<24>

執筆 者

今村 俊 男

加藤清正の肥後支配

豊後街道と南郷

天正十五年（一五八七）五月、佐々成政の旧領は、加藤清正と小西行長とに与えられた。清正は飽田、託麻、山本、合志、菊地、山鹿、玉名、阿蘇、青北の九郡を領し合わせて二十五万石、行長は宇土、益城、八代、三郡を領し合わせて二十四万石、球磨は従来通り相良長每（ながつね）の領地で、天草は五人衆（天草、支岐、上津浦、檜本、大矢野）が支配した。清正は肥後に入国すると秀吉の命で検地を始めた。これは秀吉の全国統一のためといわれている。肥後で最も古い検地帳は天正十七年のもので、菊池五十冊、山鹿七冊の計五十七冊で阿蘇のものは残っていない。



熊本城の宇土櫓

慶長五年（一六〇〇）関が原の

天下はほぼ定まったが、残るは薩摩の島津氏。清正は黒田孝高と闘って島津征伐に移り、その軍が出水に至ったとき島津氏は降伏。戦乱全く治まり、関が原以後、天下は徳川家康のものとなった。この

お知らせ

固定資産課税 台帳の縦覧を

五十年固定資産税の納付書発行を間近に控え、税務課固定資産評価係では、不動産の所有者に対し、自分の資産に間違いがないかよく確認してもらうため、三月一日から二十日まで本庁、出張所において課税台帳の無料縦覧を行っています。

係では固定資産の台帳整理にあたっては原則として法務局（登記所）からの登記済通知書によって行っており、毎年申告していたことになっている。償却資産以外の土地、家屋については台帳に登録されたことと所有権（管理権）に税金を賦課することになります。

ムダをなくす 作文標語募集

熊本県資源を大切にする県民運動推進会議では、次のとおりムダをなくすための作文、標語を募集しています。

（応募方法）①ムダをなくす実例およびアイデア（課題）自由、字数四百字詰原稿用紙三枚程度。応募資格県内居住

者）②標語（資源を大切にするものや、資源の有効利用を内容としたもの。応募資格県内小中学生児童生徒）③締切日（五十年三月十五日）④送付先（熊本市水前寺六十一一八〇一県福祉生活部県民生活室内。※詳しくは役場企画室へ。）

県民税の 申告相談へ

五十年度町民税および国民健康保険税の納税相談が始まりました。申告書の書き方、所得の計算、諸控除の計算など不明な点があれば会場でご相談になり、納得のいく申告をしてください。

三月六日～八日 農協草部支所
三月十日 農協草部出張所
三月十一日～十二日 役場野尻出張所
三月十三日 河原小学校
三月十四日 畜産センタ

みんながつくる町民のひろば



このらん「声」はみなさんのページです。よりよい高森を築くために建設的なご意見をお寄せください。

裏通りをもっと美しく

上色見 K 子 (35)

最近、町内の幹線道はよく整備され、環境美化も大きく向上しているようです。しかし、私たちが日ごろ利用している裏通り、近道

寄稿

2・26事件の思い出

高森下町 二子石

奈良、京都の出張の用務を終え、東京駅に着いたのは午前八時過ぎだったと記憶する。熱海あたりから降り始めた雪は激しくなり、東京都内も白一色に塗られていた。いつも出勤時の駅は、混雑するのに朝に限って人影がまばらなことに気がついた。そして随所には防寒帽を覆った陸軍兵士が剣付銃を手に立っていた。私は雪の中に熱心な演習で、ご苦労様と思いながら、祝田町の交番前を通ろうとすると、警官が「これから先は通行止めだ」

ため、小西行長の領地は没収され天草の代りに、豊後の地を与えられ、清正は五十二万石の領主となった。「続撰清正記」によれば、阿蘇郡は六十五万四千七百七石とあり、

清正は熊本を熊本と改め、熊本城を築き、土木、治水事業など四十五年間、善政を肥後一円に布いた。熊本の下と肥後の各地に連絡する主な道は豊前街道、豊後、薩摩、日向街道の四つで、豊後街

道は豊前街道と熊本京町の中坂で分かれ、横町一立町一立田口一太津に出て、二重峠から内牧一坂梨を経て豊後に入った。久住は肥後領、それからは竹田領の今市を通り、肥後領の野津原に出て鶴崎港に達した。

南郷は俵山に隔絶され、久木野から峠を越え、大津に出る間道がわずかに通じ、むしろ高森から色見を経て竹田に通じる往還が開けていたという。

奥さまインタビュー

永野原

工藤信子さん(22)

出稼先で知り合い、大字永野原の工藤正昭さん(23)と結婚された北海道出身の若い奥さんを自宅にお訪ねしました。

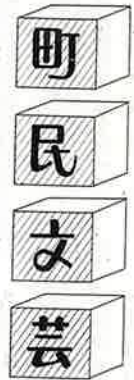
◇まず本町の印象を「道路が狭く、カーブが多いことにビックリ。農業ではタバコ、畜産水稲などを主幹作物にした複合



◇「これからはどんな家庭を」「子供を中心にした明るい家庭づくりが夢。どんなに忙がしいときでも子供の声に耳をかたむけ、笑いのある家庭をつくらうと思っています」

陸軍大将の名前がどこから出てきたのか、流言蜚語が乱れ飛び、不安の状態が続いた。宮内大臣から全職員に対し、軽率な行動をせず、政府の発表する

報道を信頼して慎重な態度をとる旨の訓辞があった。筆者は元宮内庁勤務



俳句

高森菜の花句会 二月例会作品抄

強震に犬の遠吠え寒の夜半
掘こたつ気長になりし針運び
臥せる身の心のあせり春芽立つ
ふるさとの墓参の道や下雨ゆる
身まわりの物縫うだけの針供養
給水のバケツに溢れ春の雪
牡丹雪町回り行く給水車
繋がれし仔犬おとなし日脚伸ぶ
おでん鍋煮ゆる音聞き縫い急ぐ
豆撒きの窓明け隣同志かな
阿蘇地震募金の箱に小雪舞う
湯の宿の部屋割決り春炬燵
おとのえは一輪さしの冬椿

住吉 ながえ
那須 きぬ子
内田 あや女
松岡 信子
桐原 寿
林 久恵
柴田 ふい子

肥後狂句

御神火会入選句

ほろ酔い機嫌 豊イ書き初めせにゃえゝが
そぎやんたい 休診日には怪我(けが)されん
改まり、 僕にや飛躍の兎年
達者なもん 年どま見せん小堀流
お静かに 婦長が叱る長廊下
そぎやんたい 顔より心貰わなん
達者なもん 柔かもんどま喰わっさん
そぎやんたい 無利子で良えて言わした
むぞらしさ 今年や母ちゃん貰えちゅう
そぎやんたい 四十九日も済まんとに

浦塚 南天
林 田一声
岡本 琴司
林 田瑤子
馬原 馬笑

詠草

受験子に夜食を置きて言かけず
よな害に地震追打ち阿蘇の冬
節水のよびかけ聞きつ足袋洗う
送り来し若芽旧交あたためて
頼かむり行列作り貰い水
紅梅や雪のすき間の花の色
冴え返る日々甲いの式にたつ
足音にさくらなられて予後を炉に
馬車で行く日奈久の梅の早三分

湯の里庄 今村 美園

外輪の山の入日のきらめけば
我が部屋眩しカーテンを引く
。冬ざれの庭に一本彩どりて
霜置く朝の紅き山茶花
。えんこ杉に菊花活けこみ卓に置
き独居の部屋の豊さにおり

上色見 後藤嘉平 (85)

。待ち遠し二月もなかなばすぎぬる
をまだ咲きそめぬわが庭の梅
。老ぬれば辛きは寒き冬なるを
佗しく待つは 春の音づれ

草部 今泉多美江 (82)

。阿その原雪はふりつみ日は落ち
てねぐらにいとそ鳥も寒むけに

香典返し

ありがとうございました

▽柳谷の本田英明さんから(ナツ子・66歳ご死去)

▽草部、東社倉の阿南哲文さんから

ら(吉久さん・83歳ご死去)

▽河原、市野尾の白石三土さん

ら(アサエさん・86歳ご死去)

▽尾下、多々野の瀬井浪夫さん

ら(一男さん・85歳ご死去)

▽高森、上在の佐藤幸喜さん

ら(ハルエさん90歳ご死去)

▽高森、昭和の草村照さん

ら(春夫さん・93歳ご死去)

▽色見、戸狩の荒牧割さんから

(今朝末さん・90歳ご死去)

▽高森、下町の津留光善さん

ら(善統さん・82歳ご死去)

▽高森、上在の佐藤浩さんから

香典返しとして上在老人クラブへ

おめでた おくやみ

S50.1.16~50.2.15

出生	(住所)	(保護者)	(出生児)	(性別)	(生年月日)
小倉	原野	勝木 忠男	忍子	女	50.1.4
冬昭	和井	盛野 昭男	さよ彦	女	50.1.8
昭村	山井	和幸 和幸	義昭	男	50.1.14
永野	山口	斐國 昭昭	紀子	男	50.1.27
芹岸	原口	工藤 正昭	重尚	女	50.1.6
矢津	津田	熊谷 二保	美香	女	50.1.7
草部	津部	井上 今朝一	誠	女	50.1.25
		小崎 信一		男	50.2.2

S49.12.16~S50.1.15

死亡	(住所)	(遺族)	(続柄)	(死亡者)	(年齢)	(死亡年月日)
上戸	在狩	佐藤 幸	母	佐藤 幸	90	50.1.25
上下	在狩	荒牧 幸	父	荒牧 幸	90	50.2.1
横草	在狩	浩 幸	父	浩 幸	80	50.2.1
草部	在狩	津留 幸	父	津留 幸	82	50.2.10
芹岸	在狩	林 幸	父	林 幸	93	50.2.12
多々	在狩	南 幸	父	南 幸	83	50.1.15
野和	在狩	山田 幸	父	山田 幸	75	50.1.25
昭	在狩	瀬井 幸	父	瀬井 幸	85	50.1.8
	在狩	草部 幸	父	草部 幸	93	50.1.28